

一 贅取・養子取り候儀、名主・組頭立ち会い念を入れ、後日出入が間敷儀出来申さざる様仕るべき事

一 婚禮の節は貧福の身元に寄らず、一統に一汁一菜、所有り合わせの野菜・肴二種に限り、過酒これ無く、衣類・櫛簪（くしかんざし）等は前々御触相守り、美麗（びれい）成る儀決して致す間敷事

一 婚禮の節奢（おご）りこれ無きたため、名主・組頭の内吉人立ち会い、客は親類・組合・本家・分家に限り、懇意又は曲輪（くるわ）のものたり共呼び集め申す間敷事

一 婚禮の節不吉（ふきつ）成る仇（あだ）をなし、大勢申し合い樽肴を入れ、途中にて妨げ、渡船場にて船頭並び穢多・非人、祝儀を

ねだり候様の儀これ有らば訴え出るべき事

一 掛井堀・落井堀並びに道をせばめ、田畑を仕出し、

作毛仕付け申し候はば、当人は申すに及ばず、名主・五人組何様にも急度曲事に申し付けるべき事

一 用悪水路において魚殺生（せつしょう）等いたし、水行の障りをいたし候ものは差し押さえ、早々訴え出るべし、急度申し付けるべき事

一 御伝馬人足に罷り出候馬役・歩行役（かちやく）のもの共、前々は

其の所の有り合わせの籠食を焼飯又ハ弁当こり（行李）に入れ、わらんじ（草鞋）・沓（くつ）も手作りを持参、御伝馬役を勤め、賃銭は

聊（いささ）かにても持ち帰り、神仏へ備え候程に尊び、助郷役（すけごうやく）勤め候村方は為筋（ためすじ）に心得、百姓も富み栄え、近来は

驕奢（きょうしゃ）甚しく、夫食米銘々宅より持参、又は

宿方にて買い上げ、助郷定宿（じょうやど）を頼み置き、木銭を出し野菜も調（ととの）え相賄い、昼弁当は宿々間の人馬建場（たてば）・

茶屋にて買い喰い、酒肴もいたし、わらんじハ買い用い、剩（あまつさえ）

柔弱（にゆうじゃく）ものは宿人足を買い上げ、御伝馬を勤め、われハ遊興に耽（ふけ）り、又は賭の勝負事に携わり候ものもこれ有り、一統驕奢

を是（ぜ）と心得候族多き故、連々助郷村々困窮に落ち

入り、不届の事に候、自今以後奢侈（しゃし）を防ぎ、儉約を専（もっぱ）らにいたし、古例に復し申すべし、若し背くものも

これ有らば竊（ひそか）に訴え出るべき事

一 往還通りこれ有る道橋は申すに及ばず、脇々にても常々